



せいしょ きせき ものがたり  
 聖書の 奇跡の 物語：

## パウロが まむしの 毒から 守られる

しとぎょうでん だい しょう せつ  
 (使徒行伝 第28章 1-6節)



しと せいしょ ていこく しゅうじん ふね おく たび なか ふね おおあらし  
 使徒パウロが ローマ帝国の 囚人として、船で ローマに 送られる 旅の 半ばで、船は 大嵐に  
 み あさせ の あ ゆうじん いしや  
 見まわれ、浅瀬に 乗り上げてしまいます。パウロの 友人で、ルカという 医者も いっしょに  
 ふね の しとぎょうでん ちよしゃ ととき  
 船に 乗っていました。ルカは 使徒行伝の 著者で、その時の ことを このように 説明しています。

ふね なんば の ふね じょうりく あと とう  
 船が 難破し、乗っていた わたしたちや ほかの 者たちが 上陸した 後、そこは マルタ島で  
 ある ことが 分かった。

あめ さむ しま じゅうみん び  
 雨や 寒さを しのぐために、島の 住民は たき火を たいてくれた。

パウロが えだ ひ に くべると、ねつき のために まむしが で 出てきて、パウロの 手にかみついた。  
 しま ひとびと ひと ひとごころ うみ たす し  
 島の 人々は、「この人は、きっと 人殺しに ちがいない。海では 助かったが、死から のがれる

ことは できないのだ。」と 言い合っていた。

パウロは まむしを ひ なか お なん がい う  
 火の 中に 振り落とし、何の 害も 受けなかった。

ひとびと なが あいだ ようす み なに お かんが  
 人々は 長い間 様子を うかがっていたが、パウロの 身に 何も 起こらなかったので、考えを  
 か かみさま い だ  
 変えて、パウロは 神様だと 言い出した。

(パウロは この機会を 用いて、神様の み子である イエス様について、人々に 証したのでした。)

文：ディディエ・マーティン、聖書の物語を分かりやすくしたもの 絵とデザイン：ディディエ・マーティン

Copyright © 2015年、ディディエ・マーティン 使用許諾取得済 “Miracles in the Bible\_Paul's Protection from a Viper Bite”--Japanese  
 関連の読み物はこちら ⇒ 子供のための聖書物語、奇跡、聖書の奇跡の物語